

豊田大橋の景観評価に関する研究

豊田高専専攻科 学生会員 ○内山 克巳

豊田高専 藤谷 幸弘

豊田高専 前田 博子

1. 研究目的とその背景

橋梁における景観の重要性が広く認知されてきており、設計する際に景観を意識しながら実践することは不可欠である。従って都市における橋梁景観設計において人々の橋梁に関する考え方を知ることは、大変重要なことと思われる。このような背景より、研究対象として、平成 11 年 3 月 21 日に愛知県豊田市中心部に隣接した矢作川に開通した豊田大橋を取り上げ、近隣住民から見る景観の変化を知り、この橋が地域にどのような影響を及ぼし、近隣住民はこの橋をどう思っているのかを把握するため、アンケート調査を行った。

2. アンケート

①「良い橋」を想像してもらう。

その際に必要であろう 24 の形容詞等から成る多岐選択式のアンケートを任意に選出した 150 人に対し実施。

②豊田大橋の「印象」「活性化」「利便性」「調和」に関するアンケート調査を近隣住民 280 人に対し実施。

「印象」に関しては①と同様、24 の形容詞等から成る多岐選択式とした。

*②の調査地域を図-1に示す。 *①の被験者と②の被験者は異なる。

3. 豊田大橋の景観評価に関する地域差

- ・「調和」に関する評価は低かった。それは豊田大橋が開通して間もないためと判断した。
- ・「都市との調和」よりも「身近な自然との調和」の方が高く評価された。
- ・図-2 に示す「活性化」に関する評価は、高橋地区住民に比べて挙母地区住民の方が低かった。それはアンケートの自由記入欄より、高橋地区住民は「市街地が大変近くなり便利となり、街の活性化を期待する」という考えを持っていたが、挙母地区住民は「街の活性化や交通のメリットを期待できない」という考えを持っていたために評価が低いと判断した。
- ・図-3 に示す「都市との調和」に関する評価は、挙母地区住民に比べて高橋地区住民の方が高かった。それは「活性化」「利便性」の質問において、高橋地区住民の評価が高かったことと関連しているためと判断した。

4. 因子分析

「良い橋」「豊田大橋」の印象に対し因子分析を行った。その分析結果を以下に示す。

- ・図-4 の各項目(各形容詞等)の分類別による平均を見ると、良い橋、豊田大橋の印象には「具現的要素」よりも「感覚的要素」の方が少なく、良い橋に比べて豊田大橋は「感覚的要素」がさらに少ない橋であると推察。
- ・図-5 に示す分析結果より、人々が想像する良い橋は、調査対象者が若い年齢層に集中したことも関連しているが「都市的要素」はあまり強くなく「感覚的要素」「人間と関連する要素」が強いと推察。
- ・図-6 に示す分析結果より、人々が豊田大橋に求めている印象は「都市的要素」「感性的要素」はあまり強くなく「形状的要素」「具現的要素」が強いと推察。

5. まとめ及び考察

近隣住民は橋と周辺景観に対し、狭い範囲で見ている傾向から、橋に近い景観を重視していたことが分かった。しかし、豊田大橋が開通して間もないため、調和に関する評価は低く、しかもこの橋が都市と調和することを一番望んでいたであろう中心市街地住民は、活性化や交通のメリットを期待できず、この考えが深く関連して「豊田大橋は都市とあまり調和しない」と評価している。それに対し橋の東側住民は、市街地が大変近くなり便利となって活性化を期待し、そのことから「豊田大橋は都市と調和する」と評価している。

因子分析より、人々は良い橋に対して都市・交通・形状という要素より、人間との関わりの深い感覚的要素を求めている。それに対し豊田大橋は、強烈的な形態を持っていることから形状が強い印象を与え、過剰なまでの形状を表現してしまい、感性的な要素を住民に与えることができていないと位置付けることとした。

この研究より都市景観としての橋は、いくらデザインや周辺景観を配慮したとしても、街の活性化や交通の便への配慮がされていないと「都市景観としての橋」としてはあまり評価されないのではないかと考察する。



図-1 アンケートの調査地域(1:20,000)

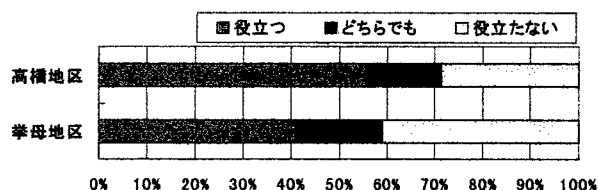


図-2 活性化に役立ちますか(地域別)

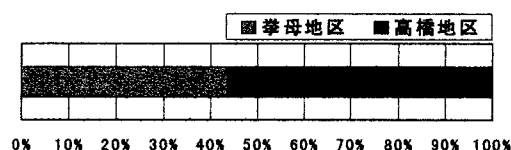


図-3「都市と調和する」と答えた人の属性(地域別)

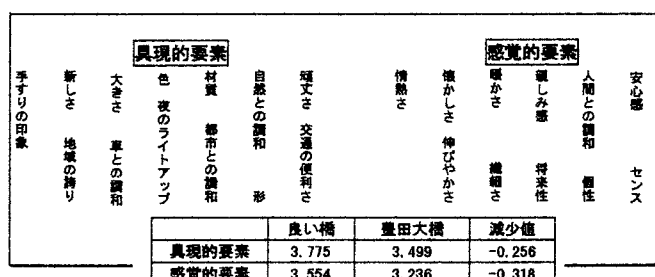
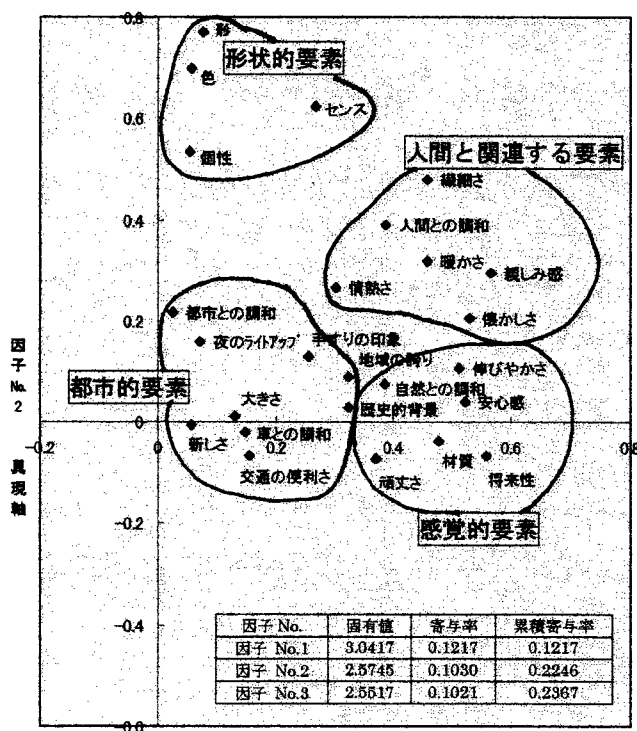


図-4 各項目の分類別による平均



因子No.1 感覚軸

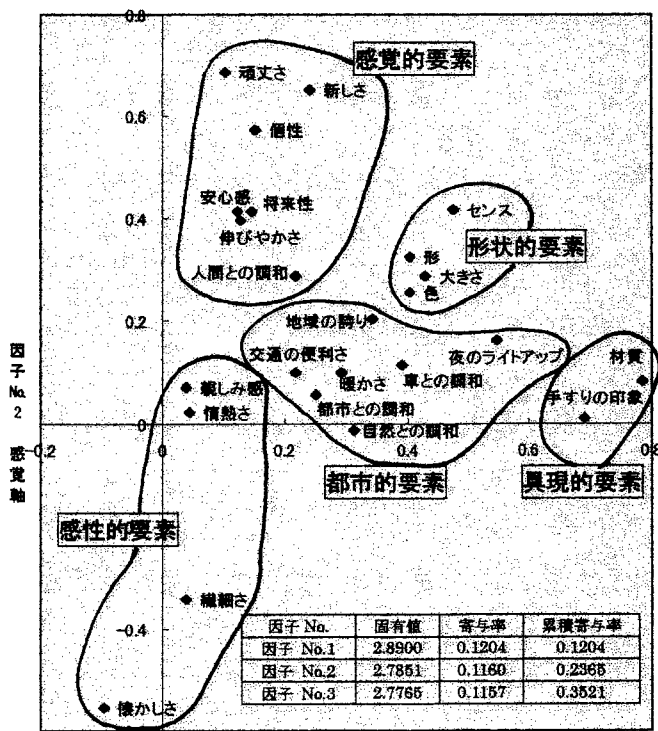


図-6 因子間の因果関係(豊田大橋)